

第71回 開放型病床カンファレンス 医療関係者向

日時：12月6日(木) 19:30~22:00
 場所：松波総合病院 3階
 テーマ：『胸部X線像上見落としの起こり易い領域について』
 講師：福井大学 名誉教授 特命教授 伊藤 春海先生

第6回 松波総合病院研修医セミナー 医療関係者向

日時：12月8日(土) 16:30~20:00
 場所：松波総合病院 3階
 テーマ：『SpPinな身体所見』
 講師：社会医療法人財団互恵会 大船中央病院
 内科部長 須藤 博先生

かかりつけ医院のご紹介

羽島市 竹鼻町の **丸の内クリニック**



内科 小児科
胃腸科 循環器科

休診日 日曜日、祝日
 〒501-6244
 岐阜県羽島市
 竹鼻町丸の内11-87
 ☎ 058-393-0765
 FAX 058-393-1415

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後 3:30~ 6:30	○	○	○	—	○	○	—

院長：加藤 茂

地域の医療に貢献するために内科・循環器科・胃腸科・小児科クリニックを羽島市竹鼻町丸の内に開設しています。開院当初より「早期発見・早期治療・早期予防」を合い言葉にスタッフ一同診療に努めています。在宅・往診も専任看護師と共にっておりますので気軽に声を掛けてください。

羽島市 竹鼻町の **渡邊医院**



内科 呼吸器科
循環器科

休診日 日曜日、祝日
 〒501-6241
 岐阜県羽島市
 竹鼻町22-1
 ☎ 058-392-2223
 FAX 058-391-2223

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後 4:30~ 7:30	○	○	○	○	○	—	—

院長：渡邊 元博

当院は呼吸器、循環器を専門としておりますが、糖尿病・高脂血症などの一般内科やターミナルも含めた訪問診療にも力を入れております。患者さまの話をよくうかがい適切な対応をとれるよう心がけておりますのでお気軽にご相談ください。

先生からのおはなし
CLINICAL TALK

介護老人保健施設の紹介 その②

日常の健康管理について

介護老人保健施設(通称「老健」)は病院と家庭をつなぐ中間施設。脳卒中や骨折など、病院での急性期の治療を終えて病状が安定し、入院治療の必要はないものの、そのまま家庭に復帰するには不安が残るという方に、医療や介護、リハビリテーションを提供し、ご家庭での生活を再び始められるよう、支援しています。当施設では2名の医師のほか、看護師、介護職員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、ソーシャルワーカーなど、多岐にわたるスタッフが常駐し、それぞれの専門性を活かしながら、利用者一人ひとりに最適なケアを提供しています。

松波総合病院 介護老人保健施設 診療部長
岩井 知彦
 専門分野：脳卒中
 認定資格：日本脳神経外科学会：専門医
 日本脳卒中学会：専門医
 日本神経内視鏡学会：神経内視鏡技術認定医
 日本医師会認定産業医



医学的管理のもとで利用者の健康を見守る。

老健における医師の役割は、利用者の心身の健康状態を常に観察し、医学的な面から全身の健康管理をすることです。利用者にとってここは生活の場ですから、言ってみれば、ご家族の身になって見守りをするということになります。私自身、ここに来るまでは脳神経外科・脳卒中の専門医として急性期病院に勤務していたこともあって、急性期脳卒中の診断と慢性期の管理(再発予防)には特に力を入れて取り組んでいます。若い時から重い障害を抱えている患者さまと関わってきたことが今の仕事に繋がっていると感じています。また、老健に入っておられるほとんどの方が慢性疾患を抱え、薬物治療を受けておられます。複数の医療機関にかかって複数の薬をもらっている方も多いため、入所者一人ひとりの既往症や服用されている薬の相互作用、不必要な重複投与などをチェックして、薬の種類や数、投与量を必要最低限にするようにしています。たとえば、よく眠れないからと睡眠剤を希望される方がいますが、睡眠剤の種類によっては、ふらつきや転倒の原因となります。特にお年寄りの場合、転倒は骨折や寝たきりの原因にもなりますので、睡眠剤の服用には十分注意し、習慣化しないように気を配っています。



理学療法士や作業療法士、言語聴覚士などの専門職がリハビリにあっています。

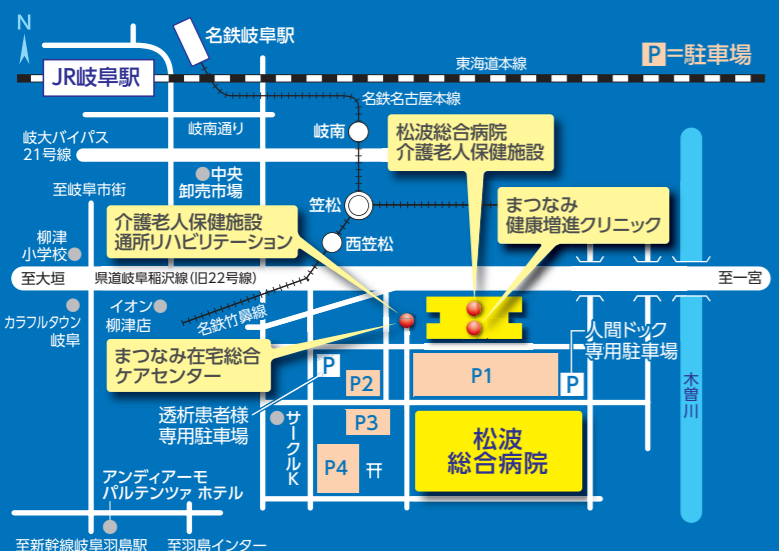
■ 万一のときも病院があるから安心。
 当施設は、地域の急性期医療を担う、松波総合病院・まつなみ健康増進クリニックに併設されています。徹底したバックアップ体制が整えられているため、緊急で治療が必要な場合は、松波総合病院やまつなみ健康増進クリニックで専門的治療を行いますので、利用者の方はもちろん、ご家族の方にも大きな安心となっています。

「ショートステイ」「デイケア」で在宅ケアを支援。

介護者の高齢化、老老介護が一般的になっている現在、介護者が疲れたり病気になったときなどには、休養をとっていただくことが大切です。当施設には「短期入所療養介護(ショートステイ)」と「通所リハビリテーション(デイケア)」、さらに隣接のまつなみ在宅総合ケアセンターには「訪問看護・訪問介護ステーション」があり、介護が必要な方とご家族をサポートしています。また近年は、医療依存度の高い方の入所や入所者の高齢化、各ご家庭の事情などに伴い、老健で看取りを行う機会も増えています。高齢者人口が増え続ける日本にあって、老健の果たす役割は、今後ますます広がってくるだろうと思います。老健がこうした社会の実情にあった機能・サービスを提供できるよう、これからも努力を続けたいと思っています。



診療を行う岩井医師。自分が利用者なら、その家族なら、ということに常に考えて入所者の方々と接しています。



「がんとともに、自分らしく 生きたい」。認定看護師は、 そんな方たちのサポーター。



がん患者さまの抱える苦痛の緩和は、がんと診断されたときから始まります。苦痛は身体的な痛みだけではなく、精神的、社会的にも大きく影響し、患者さまのQOL(生活の質)を著しく低下させます。がん性疼痛看護認定看護師の役割は、痛みの治療(薬の使い方や副作用対策の説明)や、薬物治療に伴う不安などの相談・アドバイスをを行い、痛みを緩和してQOLを高められるよう援助を行っていくことにあります。また、薬に頼るばかりでなく心理的・精神的な痛みに対しては、マッサージやアロマテラピー、患者さまに寄り添って患者さまの訴えに耳を傾けることなどで、患者さまの苦痛を少しでも和らげるよう努めています。患者さまは自分の思いを誰かに聞いてもらうだけでも、心が和らぐことが多いのです。

スタッフへの教育活動も、 認定看護師の大切な役割。

ひとりでも多くの患者さまが痛みから解放され、その人らしい生活を取り戻していただくためには、院内スタッフにも痛みの治療に関する正しい知識や情報を提供し、病院全体で質の高いケアを実践していくことが必要です。そのため、院内研修やリンクナース勉強会の企画・運営をしたり、病棟スタッフや訪問看護師あるいは他職種からの相談に応じ、日々の看護やケアのあり方についてアドバイスをしています。

患者さまが「生きる希望」を 見つけるような看護を。

私が認定看護師を目指すようになったのは、多くのがん患者さまと関わる中で、「痛みはその人らしさを奪ってしまう」ということを経験してきたからです。よく緩和ケアというと、最期の時を安らかに迎えるためのものと思われがちですが、それよりも、私は、その人の人生を自分らしく、より良く生きてもらうための看護を提供したい。そのためにも、まず患者さまの苦痛を取り除き、日常生活の質を高めるための知識と技術を学びたいと思ったのです。

“がんサバイバー”を 地域全体で支えていきたい。

私が看護師としてがん患者さまと関わるようになって20年。認定看護師になって5年が経ちますが、その間、がん治療の進歩には目覚ましいものがあります。がんの早期発見、早期治療も可能になった今、「がんサバイバー」と呼ばれる、がんと向き合い、がんとともに生きる人が多くなりました。一方で、がんという病気は入退院を繰り返すことが多く、長い闘病生活の中で、患者さまやご家族の心がいっぱいいっぱいになるときがあります。そういう方たちを支えていくためには、病院と地域社会が一体となり、みんなでサポートしていく必要があります。そのためにも、地域への啓蒙活動も必要ですし、一緒に活動する仲間も増やしていかなければなりません。幸い、当院でもがん領域の認定看護師を目指す看護師が増えていて、私自身も今、大学院で、がん医療の高度な知識と技術をもつ「がん専門看護師」を目指して勉強しており、少しずつ輪を広げているところです。支援するといっても、実は私たちのほうが患者さまから元気をもらったり、教えていただくことの方が多いのですが、これからも患者さまやご家族が共に笑顔で過ごせるよう、力いっぱい支えていきたいと思っています。



がんと向き合いながら最後まで「自分らしく」生き抜きたい。そんな方たちが立ち上げたがん患者会「絆」ではオブザーバーとして運営のお手伝いをしています。

佐野言語聴覚士の 言語聴覚療法編 リハビリ **まめ** 知識

！ 良く噛むためのポイント！

丈夫な歯を保つことが大切です。

- 効果的な歯磨き
- 禁煙
- バランスの良い食生活
- 定期的な歯科受診

！ 咀嚼力を鍛えるポイント！

- ・歯ごたえのある材料を使って料理する。
- ・素材は大きめに切るのがコツ。
- ・食事には、ゆっくり時間をかける。
- ・食べ物は、水や飲み物で流し込まない。

よく噛んで元気な身体に！

咀嚼(そしゃく)とは口の中に入れた食べ物を飲み込めるように細かく噛み砕くことです。食べ物を体内へ取り込むための、最初の消化活動とも言えます。

※よく噛むということは、強く噛むのではなく、噛む回数を増やすことです。30回/1口を目安に噛んでみましょう。(自分の状態に合わせて)
※嚥下障害(飲み込みの障害)のある方は、段階的に訓練をしていきましょう。



咀嚼力を高めて、心身の健康を図ってみてはいかがでしょうか？食事の時、噛む回数を増やすことで、あなたの身体が変わるかもしれません。

黒宮薬剤師の



知ってトクする

くすりのお話し

エピペンをご存知ですか？

エピペンは、蜂毒や食物、薬などの原因で起こるアナフィラキシーショックの際に使用する緊急的治療薬です。アナフィラキシーショックとは、急性のアレルギー反応で数分から30分以内に蕁麻疹・呼吸困難・血圧低下・吐き気などを引き起こし、重篤な場合は死に至ることもあります。

食物や薬のアレルギーのある方は日ごろから注意されていると思いますが、万が一摂取してしまい症状が

出たときのためにエピペンを常に携帯し、自分で注射します。もちろん、エピペンを注射すればすべてO.K.というわけではなく、その後すぐに病院へ行く必要がありますが、初期治療としてエピペンを使用することで予後に大きな違いがでます。過去に食物や薬でアナフィラキシーショックが起きたことがある方や、蜂に刺されたことがあり、今後も蜂に刺される危険性が高い方はエピペンの携帯をお勧めします。ただし、すべての方が使用できるわけではなく、使用すると逆に危険を生じる場合もあります。持病やアレルギー症状の内容や程度、危険性など総合的に判断して使用の適否を決めます。

気になる方は、まずは主治医の先生に相談してみてください。

まつなみ information



腹部大動脈瘤に対するステント グラフト治療の施設認定を取得しました。

このたび松波総合病院 心臓血管外科が、腹部大動脈瘤に対する「ステントグラフト治療」の実施設として認定されました。ステントグラフトとは人工血管と金属の網を組み合わせたもので、これを圧縮した状態でカテーテルの先端に装着し、足の付け根から動脈内に挿入し、動脈瘤の部位まで進んだところでステントグラフトを広げ、動脈瘤を内張りします。ステントグラフトによって動脈は蓋をされることになり、破裂を防ぐことができます。この方法だと腹部を切開する必要はなく、患者さまの負担が軽減され、入院期間も短くなると注目されています。